



幸樹

こう じゅ

第 84 号

2022 年 3 月 1 日



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

.....幸樹会事業所.....

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



『水面』

絵・高橋 聖大

追悼 塩崎俊一さん

あんず訪問看護ステーションが訪問看護・訪問リハで支援させていただいていた塩崎俊一さんが2月21日にご逝去されました。享年86歳。

心よりご冥福をお祈りいたします。

前立腺癌、多発骨転移等で療養生活を送られていた塩崎さんからは、様々なお話を聞かせていただきました。その中で強く心に残っている定年退職後から始められた市民活動についてのお話を紹介させていただきます。

(聞き手・理学療法士 平 将一)

塩崎さんは大阪府出身で、昭和10年生まれです。大手家電メーカーの三洋に就職し、昭和39年、29歳の頃に転勤で上京されました。

緑豊かで綺麗な松戸に感激

東京へ転勤となってからは、主に東京都の城東地域や千葉県東葛飾地域で営業担当をされていました。初めて松戸市へ来た時の思い出として、車で葛飾橋を渡った先には緑豊かで真新しい団地もあり、こんなに綺麗な町があるのかと感銘を受けたそうです。

塩崎さんが上京された昭和39年は、東京五輪が開催された年であり、塩崎さん自身も社内プロジェクトの担当や長女の誕生とイベントやお目出たい出来事が続いた年でもありました。

上京してからは「松戸市に住みたい」と思いを募らせていた塩崎さんは、翌年の昭和40年に松戸市へ転入し、念願の松戸市での生活が始まりました。とはいえ、当時は仕事や子育てに多忙を極めており、松戸市についてはほとんど知らないことばかりであったそうです。

阪神淡路大震災ボランティアに感銘して

塩崎さんに転機が訪れたのは、定年退職された平成7年でした。この年、阪神淡路大震災やオウム真理教による地下鉄サリン事件が発生し、日本中が悲しみに包まれた年でもありました。今では広く浸透しているボランティア活動も、阪神淡路大震災をきっかけに全国的に広がっていったそうです。

大阪府出身の塩崎さんは被災地でのボランティア活動に感銘を受け、また定年退職後で自分の時間が作れた

愛の反対は、無関心だ！



塩崎俊一さん、自宅で（2月14日）

ことから松戸市での市民活動を開始しました。まずは素敵な松戸を作る会へ参加し、市民の力でできることを模索していきました。当初は会の方針も漠然としていましたが、「千代田線のラインは緑だから、江戸川沿いの緑も守ろう」と松戸市内の景観保全に向けた活動方針を決定しました。景観条例を制定することを目標に、当時景観保全で全国トップであった東京都国立市や東葛飾地域でトップであった我孫子市へ団体で見学にでかけました。景観意識についての市民調査、市民向けの講演会を開催する等の活動も進めました。

市民活動と並行し、「自分が松戸を知らなければ変える事はできない」と松戸市議会本会議の傍聴を毎年欠かさず続けられました。

平成23年に「松戸市景観条例」が制定され、塩崎さんたちの活動は実を結びました。

地域社会を良くするには深く知ること、行動すること

塩崎さんはこの他にも、松戸市の「パートナーシップ条例」制定に向けた活動や市内に新しい図書館開設に向けた活動を約20年続けられてきました。昨年末には「ひがまつテラス」が開設され、市内に新しい図書館が開館したことを嬉しそうに話されていました。

インタビュー後の2月21日、塩崎さんは奥様が見守る中永眠されました。

今回のインタビューでは、「何も知らないで文句だけ言うのは良くない、街を良くするためには自身が街を深く知る事が大切である」「愛の反対は無関心だ」と塩崎さんは何度も強調されていました。

長らく市民活動に従事されてきた塩崎さんだからこそその重みのある言葉であり、私自身も深く考えさせられました。



ひがまつテラス（東松戸）

2月地域交流カフェ

どら焼き作りを楽しむ



2月15日の地域交流カフェは、どら焼き作りを行いました。今回も感染対策のため、職員とさんしょうのご利用者様のみでの開催となりました。

どら焼き作りは以前もさんしょうで行ったことがありますが、今回は地域交流カフェで行うということもあり、餡子にこだわりました。餡子はなんと4種類！ずんだ餡・紫芋餡・いちご餡・プレミアム餡子と用意し、緑・紫・ピンクと色合いも豊かでした。作り方は単純、餡子をホットケーキで挟むだけ。

せっかく餡子をいくつか準備したので2つか3つは食べてもらいたいと思いホットケーキは小さめに焼いたのですが、皆さん満腹なんてなんのその、「餡子はとりあえず全種類食べたい」とお代わりの連続で、途中で職員が止めにはいることもあるほどでした。

皆さまがお腹いっぱいになったところでお茶を飲んでお開きとなりました。

いつもの地域交流カフェより小規模で、作る工程もシンプルなものでしたが、自分の好きな餡子を選ぶ楽しさや味の食べ比べなど、とても楽しい会となりました。

(介護福祉士・原 広和)

薬剤師 の つころ

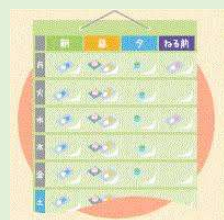
からたち薬局・薬剤師 桐山 章宏

私が、幸樹会に勤務し始めてから半年がたちました。新しい環境になり、今までほとんど見ることもなかった疾患の方や処方箋に出会うなど、新鮮なことが色々ありました。特に新鮮なのは、個人への在宅訪問でした。

サービス付き高齢者住宅の入居者さんへの訪問は前職でも経験してきましたが、患者さんのご自宅へ訪問して、薬の指導・管理をするのは初めての経験でした。

「生活を知る」、在宅で新鮮な経験

特に勉強になったのは、患者さん自身の薬の管理方法でした。サービス付き高齢者住宅などの施設では、看護師やヘルパーが、名前・日付・曜日・用法を確認したうえで、患者さん毎に薬を管理



し、服用時に渡してくれます。しかし、在宅では常に薬を管理してくれる方がいるわけではないため、ご自分で薬を管理するにあたってのいろいろな工夫をお見受けしました。薬の管理方法も様々で、服薬ボックスに入れて管理する方、用法ごとにプラスチックのケースをいくつか用意して薬を管理する方などがいました。ご自身で決まった時間に服用できるよう工夫をされているのを見て、患者さんによっていろいろな薬の管理方法があるのだなと、すごく勉強になりました。

また、在宅の患者さんの生活について、薬剤師として視野が広がりました。外来の患者さんとは、服薬指導の数分という限られた時間でお話をするため、薬の効果や副作用についてお話しすることが多くなってしまうのですが、自宅訪問では患者さんとお話しできる時間が多く持てるため、生活の様子についてお話しできることが多いです。そのお話の中で、必要な薬があるかどうかについて考える機会も多くなりました。

在宅薬剤訪問管理指導に携わって半年ですが、いろいろな経験をさせていただいていると感じております。これからも自分自身の成長を重ねながら、地域の皆さまへのサポートを行っていかれたらと思います。

今月の屋上太陽光発電量は、

836KWh

幸樹会館電力使用量 7356KWh 自給率 11.36%



職員募集！ 非営利・働きがいある職場

看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ：本部中野まで、☎047-701-7550



デンマーク便り...④④

ラスムッセン 京子

1月26日の盲腸炎手術後の経過です。手術後の翌日、元気に退院し自宅のあるボーンホルム島に帰りました。術後の抗生物質処方はありませんでした。

ところが、その後毎日痛みが増し、5日間処方された痛み止めの薬を服用しましたが、手術前より痛みが増し、熱が出てきました。

1月31日午前8時、救急コールセンター1819に電話連絡し、状態を説明し「手術後の膿疱形成ではないか」というと、島の病院へ受診の連絡をしてくれました。病院救急受付へ8時半に到着。そこで待つこと2時間半、血液検査、看護婦さんの問診、医師が来て診察があったのは3時間半後でした。CTを午後2時40分に撮り、膿疱を放射線医師と自分で確認しました。

そこに当直外科医が来て、「すぐ処置しましょう」と。超音波の担当医が局部麻酔で膿疱にカテーテルを付けて膿を吸引、生理水で洗っていただき、抗生物質の静脈点滴が開始されました。3日間の入院で点滴治療を行い、2月3日に退院。その日は、おへその上の傷が痛くて超音波検査を受けましたが、術後のヘルニア脱腸等では無いと分かり帰宅しました。

手術後が大変でした

その後3日間、抗生物質錠剤服用し、10日目に一般医の手を煩わせる必要もないと思い、傷口の抜糸を自分でしました。おへその上は固く腫れていて糸が埋没していて、抜糸が困難でした。



ボーンホルム島の夕景

抜糸して楽になりましたが、2日後おへその上の傷口から膿が溢れ出し、再び朝から1813に電話連絡して病院救急受付へ。医師が来るのを3時間待って、局部麻酔で傷口を切開、生理水で洗浄してもらい帰宅しました。

こういう傷は、術後すぐに縫えば膿疱を皮下に形成しやすくなります。私の傷は、自宅で毎日3時間ごとに洗浄し、やっと2月21日に水分が傷口から漏れなくなって傷が治りました。途中、これ以上の悪くはならないだろうと、2月14日から仕事に復帰しました。仕事の合間にも、3時間ごとに洗浄を実行し、ようやく元気になりました。

コロナ禍で医師が不足し、手術をした私の病院でも、中堅医師の家族が感染し「濃厚接触者」として出勤していない状況での手術でした。執刀医は専門医になったばかりの女医さんでした。多分内視鏡ではなく、小開腹して虫垂を切除したほうが簡単だったと思います。手術の

記述には、虫垂切除後2つのクリップで切除口を止めたが少量の漏洩を認めるとあったにもかかわらず、術後の抗生物質の処方がなかったことに異議を唱え、本人に判断が甘くなかったのかとメールで連絡しています。

私個人の虫垂炎術後の体験なのですが、私のような経験を他の患者がする可能性があるので、医師本人に伝えないといけないと思ったからです。

近くの梅畑の梅の花は満開へ



石畳の中で頑張るふきのとう



さんしょうの優しい顔のお雛様



八柱学習会

〇3月は中止です。

▼次回学習会予定（「定例日：毎月第3金曜日」）

4月15日（金）18：30～、幸樹会館2階

「地域ケアの変遷と未来」

1975～2020の時代体験と実践から語る⑥

お話・武井幸穂氏

《参加自由》